

吹き付け遮光資材の効果確認試験

JA新おたる
パプリカ生産組合



施工ハウス



吹き付け様子



中から



影の様子



希釈した様子

試験目的

吹き付け遮光資材の効果確認試験

試験作物 及び品種

パプリカ

試験資材 及び数量(規格)

ハウスクール 13.5kg缶×2

慣行資材

遮光ネット

栽培方法

播種日

2月9日

収穫日

8月以降

【栽植密度】
畝幅：50cm
株間：45cm

資材使用期間

7月29日～10月27日

試験区面積

180㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

動噴を農業にも使用するため、動噴の清掃は面倒である。

試験1回目は70L希釈ですぐ塗布剤が落ちてしまったため、2回目は60Lとした。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

ハウス内は涼しく感じた。遮光によって着果に影響はなかった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：希釈倍率の調整で遮光期間が維持できること。

【問題点】：希釈するときにかき混ぜるなど少しコツがいること。

(4)促成・抑制効果について

作物に悪影響はなく問題はなかった

塗布後日数(日)	6	27	55	90
試験区(%)	43	40	39	25
慣行区(%)	23	15	18	24

↑照度計での測定で遮光率を算出

(5)保温効果について

特に問題なし。

モニター感想

遮光資材は塗布後、55日まで遮光率40%前後を維持した。

日焼け果が少ない年であったため、慣行品との差はわからなかったが、着色の遅れや着果の遅れは見られなかった。

遮光ネットよりも作業は良いが、塗布剤を剥がせる何かがないと調整がしづらい。

JA担当者の感想(赤井川事業所 指田主任)

単価の問題は大きいと思います。経年変化確認が必要と感じます。総じてコスト問題は解決しなければならぬ問題だと思います。

今後の使用について

継続して使用したい。